

# 冬期間の転倒災害を防止しましょう！

## 趣旨

宮城県内の平成23年12月から平成24年3月までの期間において積雪・凍結を起因とした転倒災害及び交通事故(以下「冬季転倒災害」という。)で被災した労働者の割合は、同期間中の死傷者全体の18%と高い割合になっています。

## 冬季転倒災害を防止するため次の取組をお願いいたします

### 1 冬季転倒災害防止に向けた安全な通路の確保等

職場内の「5S」活動(整理、整頓、清掃、清潔、しつけ)を活性化するとともに、特に事業場の敷地・通路については、転倒防止のため次のような措置を行うこと。

- (1) 通路面が積雪・凍結状態とならないよう適宜清掃等を行うこと。
- (2) 屋外に通じる階段やスロープには滑り止めを設けること。また、必要に応じて手すり等を設置すること。
- (3) 凍結が予想される場所には、凍結防止剤を散布すること。

### 2 スリップ等による交通事故の防止

冬季の自転車・バイク等の運転の際には、スリップ等による交通事故を防止するための次のような措置を行うこと。

- (1) 車両へチェーン等適切な装備を装着するとともに、安全な走行速度の遵守について徹底すること。
- (2) 気象条件を踏まえた適切な運行計画を作成すること。

### 3 注意深い作業や歩行の徹底

積雪・凍結した地面や路面上で作業を行ったり、歩行する場合には、次のような慎重な動作を徹底すること。

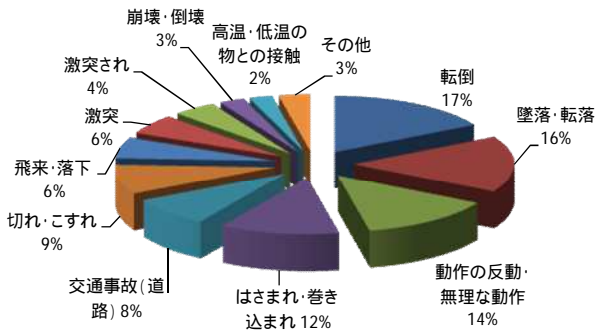
- (1) 滑りにくく安定した靴を着用すること。
- (2) 転倒のおそれのある場所では、上着やズボンのポケットに手を入れたまま歩行しないこと。歩行しての携帯電話の使用は避けること。
- (3) 「かかとから着地する歩き方をしない」、「歩幅を狭くする」、「あらかじめ少し膝を曲げた状態で歩く」等路面に合った歩き方をすること。
- (4) 雪のある環境から屋内に入った場合、靴の裏に付いた雪や水により滑りやすくなるので、十分に拭き取る等により除去すること。
- (5) マンホール、側溝の蓋など金属製の物の上は、雪によってより滑りやすくなるので注意すること。



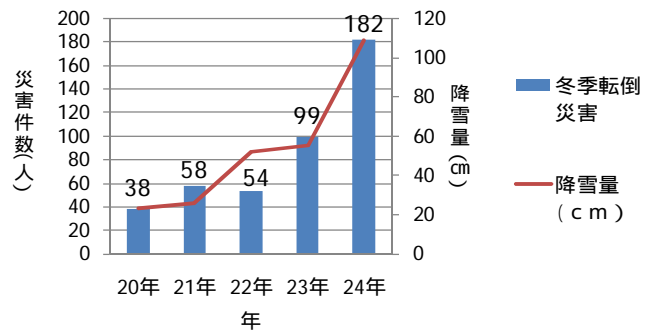
# 転倒災害発生状況

- 1 冬期間の積雪・凍結を原因とする転倒災害や交通事故(冬季転倒災害)が、宮城県内で大幅に増加しています。特に平成24年1月から3月においては、167人も冬季転倒災害が発生しており(前年比76%増)、長期の休業を要するような重篤な災害も多発しています。
- 2 冬季転倒災害件数は、降雪量にほぼ比例しており、例年1月から3月の3ヶ月間に集中して発生している傾向が認められ、今年度もこれからの時期について特に注意が必要といえます。
- 3 業種別に見ると、第三次産業(商業37%(うち新聞販売業16%)、保健衛生業8%、その他の第三次産業21%)、製造業12%、道路貨物運送業8%、道路旅客運送業7%等となっています。また、発生の際の状況も、新聞配達中に自転車・バイク等で転倒、会社の敷地・通路での転倒、現場作業中に転倒と多岐にわたっています。

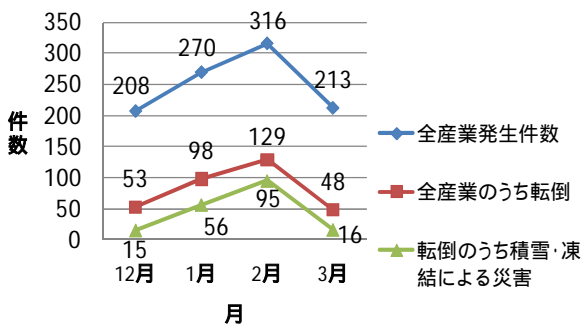
1 事故の型別発生状況(H20.1～H24.11)



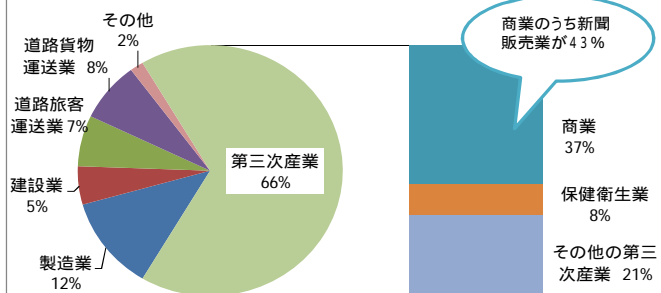
2 冬季転倒災害と降雪量(各年12月～3月)



3 冬季転倒災害発生状況(H23.12～H24.3)



4 業種別冬季転倒災害 182件(H23.12～H24.3)



# 災害事例

No	年齢	性別	業種	休業	発生状況
1	40代	女	小売業	6ヶ月	仕事終了後、駐車場に向かう途中地面が凍っていて転倒。骨折
2	40代	男	運送業	3ヶ月	トラックに荷を積みこむ際、雪で足を滑らせ転倒。骨折
3	40代	男	派遣業	5ヶ月	小走りで移動中、凍結路面で転倒。骨折
4	50代	男	新聞販売業	3ヶ月	自転車で朝刊を配達中、シャーベット状の路面にハンドルをとられ転倒。骨折
5	20代	男	新聞販売業	1ヶ月	バイクで朝刊を配達中、凍結路面で転倒した。右足骨折
6	50代	女	旅館業	2週間	ゴミを捨てるため外に出たところ、雪で滑って転倒。右手首関節捻挫。